

## <特集記事> 我が社の独自性を支える「経営の掛け算」- 中編 -

特集記事【我が社の独自性を支える「経営の掛け算」】では、粉体を微細化するビーズミルの開発・製造・販売を行うアイメックス㈱(東京都墨田区)の特集記事をお届け致しています。第2回では同社の独自性を支えてきた経営の掛け算を解説していきます。

※ビーズミルとは、粉体はナノ(1ミリの100万分の1)単位に微細化されることで、今までと異なる新しい物質の特性を見出すことが可能になり、ビーズミルはその微細化工程を行うための機械装置です。

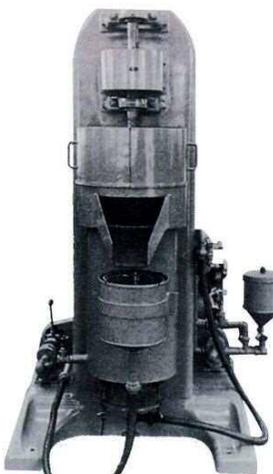
### ◆アイメックスの独自性を支える「経営の掛け算」とは？

#### <掛け算①> 町工場からの脱皮への「思い」とビーズミル開発の機会との「出逢い」

1960年(昭和35年)設立の五十嵐製造㈱(現 アイメックス㈱)は印刷機械の部品加工業でしたが、どうしても価格決定力が弱く、受け身の経営となっていました。年々、取引条件が厳しくなり、利益も少なくなってきた頃、『このままではダメだ！少しでも上流工程に進もう』との心の発端によって町工場からの脱皮を決意します。

ちょうど、その時に取引先の印刷会社から“ある開発プロジェクト”への参画を持ち出されます。この開発プロジェクトは米国のサンドグラインダーと呼ばれるビーズミルの原型となる機械でした。同社の加工技術を総動員し、初の国産サンドグラインダーの開発に成功します。その後、自社独自の加工技術を駆使して改良に改良を重ね、現在のビーズミルのプロトタイプとなる機械の製造に辿り着きます。日本で最も早くビーズミルを製品化した瞬間でした。こうして同社は町工場からメーカーへの第一歩を歩み出すこととなります。

この後、同社はビーズミル業界の黎明期を技術力で支えると共に、50年以上の長きに亘りビーズミルの研究・開発・発展に努め、現在、微細化の技術はスマホや医薬品など幅広い業界に応用されています。よって、「経営の掛け算」その①は、自社の将来(=町工場から脱皮)への強い「思い」と、創業当時からは思いもよらないビジネス(=同社の事業の柱に成長するビーズミル開発)との「出逢い」でした。



#### <掛け算②> 顧客のコトバにできない要望をカタチにする(思いを汲む)「開発力」

同社がメーカーへ転身する契機になったのが「お客様のニーズに応える開発力」でした。印刷機械部品の加工という限られた技術力でありながらビーズミル開発という壮大なプロジェクトに参画し、それをやり遂げる経験は同社のDNAとして今も継承されています。顧客の要望に対して、どうやったら、お客様のニーズを満たすことができるのかを、お客様と共に考え、前進して行くのが同社のスタンスです。

顧客の中には開発するプロセス(何を、どのように)が明確になっている場合と、開発したいイメージだけがある場合の2通りあります。前者では企業秘密や守秘義務を理由に開発のヒントが少なかったり、細切れになっている場合があります。後者では漠然とした方向性が見えているに過ぎないため、開発の方向がぼやけている状態です。それら霧の中にいるような段階で開発プロセスの交通整理を行い、見える化を行うのが技術部の役割です。

同社の技術部では微細化を研ぎ澄まし、顧客が要望する一歩先の提案を行うことで「最高の満足度を生み出す設計」「新鮮な気付きを与えられる設計」をゴールにしています。たとえ、それが同社のサービスメニューになかったとしても、顧客の状況に応じて各担当者が得意分野で開発に関わり、個の知恵から集団(会社)の知恵に高め開発に活かす仕組みが「思いを汲む開発力」を支えています。現在、医薬品業界に留まらず、電子部品や半導体・電池業界からも引き合いがあり、ビーズミルの新たな価値の提供の幅を広げています。

技術部を支える中堅社員Aさんは『技術的な提案でお客様に対してより高い満足度を生み出すことが出来ると社会に貢献していると実感できます』と話します。よって、「経営の掛け算」その②は、ものづくりに留まらない、ヒトづくり・チームづくりへのプロセスが「思いを汲む開発力」の養成に大きく貢献していることです。

## <特集記事> 我が社の独自性を支える「経営の掛け算」-中編-

### <掛け算③> 中小企業施策の積極的な活用による、研究開発力の強化・認知度向上

同社の歴史を振り返ると“ある特徴”が見られます。それは、「外部のチカラ」を経営活動に巧く取り入れている点です。掛け算①では町工場からメーカーへの転身では取引先からの開発プロジェクトへの誘いが主力事業「ビーズミル」開発の契機となりました。

そして、「外部のチカラ」の2つ目は中小企業施策の積極活用です。同社はこれまで成長ステージに応じて2段階で中小企業施策を活用してきました。

#### <第1段階> 2012年(平成24年)ものづくり補助金の活用

ビーズミルのパイオニアとして新たな価値づくりへの取組みを開始します。従来、同社のビーズミルは塗料や染料など人体に摂取されない領域での微細化が中心でしたが、「微細化」に「医療・健康」をキーワードに加えることで今までにないビーズミルの価値づくりを目指しました。

通常、微細化の工程では微細ビーズと物質が攪拌、摩擦によって分解・粉砕されていきますが、この時、僅かながら摩耗分が生じてしまいます。人体に摂取される医薬品分野ではこの摩耗分が命取りになりますので、開発段階では試行錯誤が続きました。

ここで同社の「思いを汲む開発力」が効果を発揮します。研究開発センターでは異分野の開発プロセスを参考に、微細ビーズをドライアイスにするアイデアが生まれます。実際試作品を創ると摩耗分は出るものの蒸発し、摩耗分がなくなることが判明しました。さらに、-196度の超低温での粉砕は従来、難しかった物質（樹脂）の粉砕も可能にしたのでした。

これら試作・開発プロセスでは平成24年度 ものづくり補助金

【事業計画名：高機能材料創製に貢献する新しい超低温・ナノ微粒子粉砕装置の開発】を活用しました。無事、採択を獲得し、同社にとって新しい市場である医薬品分野での展開がスタートしました。



### <第2段階> 2018年(平成30年)ビジネスコンテストでのダブル受賞

2018年2月、革新的な技術開発を行った中小企業を表彰する第7回 渋沢栄一ビジネス大賞(埼玉県)、テクノロジー部門で特別賞を受賞します。

さらに2018年11月 革新的な製品・技術・サービスの開発を行った中小企業を表彰する世界発信コンペティション(東京都)、ベンチャー技術部門で特別賞も受賞することとなりました。

受賞に際しては、先のものづくり補助金で開発した「低温・凍結粉碎ビーズミル」がその革新性を評価されました。元々、この技術は取引先企業が持っていた製法特許に基づき、特許を活用した装置開発ニーズを実現したもので、まさに同社の「何とかする開発力」が評価されたこととなります。

よって、「経営の掛け算」その③は、同社の独自性である「微細化の技術」をより高度化し、その微細化技術の認知度を向上させるための中小企業施策の積極活用です。

### ◆アイメックスの未来に向けて…

これら3つの「独自性の掛け算」によって、同社は印刷機械の部品加工を行う町工場から68年掛けビーズミル装置メーカーとして業界を牽引するまでに成長してきました。今後、100年企業に向けて、五十嵐社長は「技術開発力の底上げ」を目指しています。

そこで、次号WAVE(第220号)では、「技術開発力の底上げ」に向けた具体的取組みをご紹介します。なお、掲載情報については各社ホームページを参照下さい。

◆アイメックス株式会社 HP: <http://www.aimex-apema.co.jp>

◆リタネッツ事業協同組合 HP: <http://www.ritanets.com>



労働時間、有給休暇を適正に管理するための

## iPad & エクセルを活用した 勤怠管理システムセミナー

「働き方改革」の一環で、4月1日から年次有給休暇に新ルールが適用されます。年次有給休暇が10日以上付与される労働者に対して、使用者は、年次有給休暇を付与した日から1年以内に、5日間は必ず取得させなければなりません。もし、違反すると、使用者に30万円以下の罰金が科せられます。

最近、労働時間、有給休暇の管理が不十分な組合員さんからの問合せがあります。当組合が提供する勤怠管理システムは、iPad版タイムレコーダーへQRコードをかざすだけで簡単に打刻でき、PC側で勤務表作成ツールの作成ボタンをクリックするだけで、個人別の勤務表と、勤怠集計表が作成されます。勤怠集計表はCSVファイル形式でも出力できるので、ご利用されている給与計算ソフトに勤怠集計データを取り込めます。このシステムを活用することで勤怠集計時間が大幅に削減できて、集計結果のダブルチェック等が不要になります。

他社では、iPadで出勤以外の情報も管理しています。他社導入事例紹介では、iPadの具体的な活用方法もご紹介させていただきます。

### プログラム

1. IT利活用が必要な背景
2. 給与計算における問題点
3. 勤怠管理システムの説明
4. 導入手順の説明
5. 他社導入事例紹介
6. 質疑応答

### 開催日時・場所

日程：平成31年4月18日（木）  
 時間：14：00～15：00  
 場所：埼玉県さいたま市大宮区吉敷町1-135  
 アライ吉敷1丁目ビル9Fセミナールーム  
 定員：4名  
 費用：無料

### 講師

リタネッツ事業協同組合  
 坂 弘之

### 申込・問い合わせ

FAX送信先  
 048-658-8883

リタネッツ事業協同組合 事務局  
 TEL:048-658-8881

企業名

役職

氏名

所在地

TEL

FAX